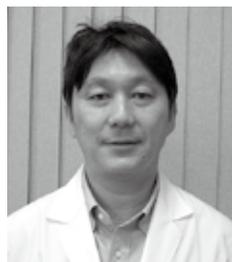


眼科における救急疾患について



やまもと眼科クリニック
山本正治

す。心臓疾患、高血圧、動脈硬化、糖尿病など全身疾患がある人に起こりやすくありません。すぐに血流が戻れば視力は回復しますが、数十分も経つと痛んだ網膜の回復は難しく、視力は戻りません。

そのため、この疾患の処置は一刻を争います。病院に行くときにはすでに数時間たっていることが多いですが、それでも処置によってある程度回復することもあるのです。この疾患を疑った場合はすぐに病院に連絡してください。

見る、聴く、嗅ぐ、触る、味わう。私たちが持つ五感の中でも、目からの情報は全体の約80%を占めると言われています。

急激に視力を失うと毎日の生活に大きな影響を与えるのは言うまでもありません。目の疾患は無数にありますが、その中でも急いで受診すべき疾患を中心に述べたいと思います。（外傷は除きます）

●緊急性が高いもの

○網膜中心動脈閉塞症

片目が急に見えなくなります。視野全体が真っ暗になります。痛みはありません。原因は血液の塊（血栓）が網膜の血管に詰まるため、網膜への血行が途絶えるからで

強くなります。本来透明な角膜が白く濁ったり、まぶたと角膜炎が引いて癒着してしまっています。濁った角膜は元に戻りません。

病院に出かけるよりも前に、一刻でも早くその場で処置をする必要があります。

処置とはすぐに大量の水で目を洗うことです。洗面器などに顔をつけて目をばちばちするくらいではだめです。

水道の水を流したままにして直接10分以上目を洗うことが必要です。洗眼が済んだら、ただちに眼科を受診してください。

○緑内障発作

突然起こる激しい眼痛、頭痛、さらには悪心、嘔吐などが症状です。

内科的疾患や脳出血と間違われることもよくあるため、他科の検査をしているうちに視神経が障害され高度の視力障害を残すことがあります。眼圧が上がっているため、まぶたの上から眼球を押さえてみると悪い方の目が異常に

結膜異物も傷みが強いです。上まぶたをひっくり返すとすぐに除去できます。

○電気性眼炎

電気性眼炎は、電気溶接、殺菌灯の光に長時間さらされ、角膜に火傷を負った状態です。溶接などの作業をして長時間紫外線にさらされ、ゴーグルなどで目を保護しなかつた場合に起こります。

光にさらされて6時間から

硬いのが分かります。目が赤く充血し、視力障害があつて前記の症状があればまず間違いないので、早く眼科を受診してください。

●痛いもの（緊急性はなし）

○角膜、結膜異物

金属を削る作業中に鉄片が角膜に刺さることがあります。鉄片は時間が経つと周りにさびが発生して鉄さび症という視力障害につながる合併症が起こります。治療は鉄片を周りのさびごと除去します。

金属、特に鉄や銅などの毒性の高い金属を扱う仕事に就いている方は、作業中には必ずゴーグルなどの防護メガネを着用してください。

また、まぶたの裏に入った結膜異物も傷みが強いです。上まぶたをひっくり返すとすぐに除去できます。

○電気性眼炎

電気性眼炎は、電気溶接、殺菌灯の光に長時間さらされ、角膜に火傷を負った状態です。溶接などの作業をして長時間紫外線にさらされ、ゴーグルなどで目を保護しなかつた場合に起こります。

光にさらされて6時間から

10時間くらいして急に痛くなり、ひどい場合は目を開いていられなくなります。症状は次第に軽減します。治療は点眼や軟膏で目を保護します。

●比較的緊急性があるもの

○眼底出血、網膜はく離

眼底出血は網膜表面の血管から出血を起こす病気です。最初のうちは軽い飛蚊症（小さなゴミや虫、髪の毛のようなものが見える症状）、その後視力低下が起こります。原因は高血圧・糖尿病・腎臓病などの全身病によるものやぶどう膜炎などです。

網膜はく離の初期症状は、飛蚊症、光視症（光がないのにチカチカ光のようなものが見える症状）、視野欠損（カーテンに覆われたように物が見えにくくなる症状）などがあります。痛みがないことから、気付かないことも多いようです。

治療は薬物療法、レーザー、手術などとなりますが、両疾患とも夜中に起こつてすぐに病院に駆け込むような緊急性はありません。安静にして翌日受診するので大丈夫と思えます。

光にさらされて6時間から